

震災前後、能登の日常を 活写する生活ドキュメント

評者 藤田東二（宗教哲学者・京都大学名誉教授）

「能登のムラは死なない」と、その

ために何が出来るか。

本書を讀んで思った。ジャーナ

リストはすごい。真実に徹してい

る。能登、ムラ、能登、能登、「

つ」のことが生きて存在している。

（能登町の真跡を辿る）（能登町の

の語（p.32）とか。

どこにも拍案も拍案もない。記

事には字数制限があって、割りに

割っているのだろうが、拍案では

なく、「それ」をその固有を例示

してすくい取っているのだ。だか

らこそ固有名が活きている。動い

ている。死んでいない。ここには、

震災前の生活と震災後の風景とた

くましいしなやかな日常が活写さ

れている。ファクツ（事実事象）

の中に祈りと命が宿っている。

学者・研究者の文章とは大違

いだ。研究者は抽象と整理が好きだ。

理論化にしのぎを削る。

だが、固有の存在は理論化（？）

吹く風で、たんだんと「それ」を

生きている。「ありのまま」を生

きまっている。この優れた生活ド

キュメントを讀みながら何故も天

を聞いてつなぐやうだ。「能登のム

ラは死なない」でくれと。能登は

ハートであり、スピリットだ。

その証拠に、縄文時代最大最高

の遺跡の真跡遺跡があるではない

か。10本のウッドサークルが天地

と海山をつないでいるではないか。

それは日本列島の「真の御柱」で

あり「霊の御柱」であり「心の御

柱」なのである。能登フリークの

わたしは心底そう思っている。

その豊かで、多様で、調和があ

って、美しく穏やかな列島の原風

景の真跡遺跡が能登半島の中核に

あって脈々と鼓動し、やがて輪島

能登の

ムラは

死なない

藤井 満 著

能登はやさしや

ユウでE

藤井 満

能登町の真跡を辿る。能登町の歴史、文化、祭り、移住者の活躍など
能登町の歴史、文化、祭り、移住者の活躍など
能登町の歴史、文化、祭り、移住者の活躍など

『能登のムラは死なない』

藤井 満 著

農文協 1980 円（税込）